和教時報
2022年11月15日（火）発行　第1991号（毎月15日発行）
発行所／〒640-8269 和歌山市小松原通3-20　和歌山県教職員組合
TEL 073-423-2261　FAX 073-436-3243　情宣部長／山口法之
1部　20円（購読料は組合費に含みます）

第2回 確定交渉

人勧どおりの賃上げが確定！
第3回以降の日程は、引き続き調整中

和教組　書記長　川口　貴生

一〇月三一日に第二回確定交渉を行いました。コロナ禍ですが、密にならないよう配慮しながら今年は少し参加人数を増やし、会場に五三名（和教組四一名）が集まり、オンラインでも多数の方が視聴しました。

交渉では、月例給について、物価高騰の中で全世代が対象でないことは不満ですが、人勧どおり若年層を中心に三〇代半ばまでの層を引上げ、勤勉手当を〇・一月（再任用は〇・〇五月）引き上げることを確認しました。四月に遡って引き上げるため、すでに支払われた給与との差額が年末に支給される見込みです。

一方、会計年度任用職員の賃金に関しては、経験年数に応じた給与の上限撤廃は「困難」、ボーナス引上げは「国や他の都道府県の動向をふまえすすめる」という回答にとどまり、継続課題となっています。

超勤縮減も重要な課題ですが、今年は県人勧が「教育委員会は具体的な成果を出す必要がある」と厳しい指摘をしており、交渉では、人勧を取り上げ、増員と業務削減を強く求めました。しかし県教委は「働き方改革推進プランにもとづき今後も推進していく」など、具体性のない回答に終始しました。多忙解消に向けた具体的手立てを引き続き求めていきます。

今年の交渉に向けて「安心して出産・子育てができる環境整備を求める署名」へのご協力をお願いしてきました。第二回交渉では第一弾として二九〇〇筆を提出し、参加者からも「先読み加配」の実施などを求める発言がありました。しかし回答は「困難」にとどまっています。翌日に文科省が小中学校の「先読み加配」に加配をつけるという報道が流れましたが、こうした動きもふまえて引き続き実現を求めていく必要があります。

すでにお知らせしているように、今年の確定交渉は知事選挙の影響で変則的なスケジュールとなっており、第三回以降の日程が今も決まっていません（執筆時点）。決まり次第お知らせしますので、粘り強く力を合わせてがんばりましょう。

いよいよ来月 12.3

「未来をひらく教育のつどい」2022

いよいよ県教研が来月に迫ってきました。

集まることを基本とさせていただきましたが、コロナ禍の三年で積み上げたノウハウをいかし、オンラインでもお誘いいただければ、と思います。分科会は午前九時半～ICT機器を駆使した実践レポート、一般の方のミニ講座、どれも聞きたい、参加したい。レポートタイトルを見ただけでワクワクしてきませんか!?また、教育条件や平和を考える分科会は今、私たちの思いを寄せあうためになくてはならない講座があります。

全体会講師、本田由紀先生の認知度は高まってきているでしょうか。東京大学に入らなくてもこの集会では無料で聴講していただけます。絶対お得!!

午後から参加される方は書道資料館へお越しください。

軍事費を増やすのではなく、教育予算を増やして教育の充実を！

教育全国署名で ゆきとどいた教育の実現を！

二年以上続くコロナ禍のもと、子どもたちの成長・発達、心身への影響は深刻となっています。また教職員の長時間過密労働の実態も改善されていません。子どもたちのいのちと健康を守り、学びの保障と教職員の長時間過密労働を解消していくためには、少人数学級のさらなる前進と教職員の増員、配置拡充が必要です。

また、日本の「公財政教育支出の対GDP比（二〇一八年）」は二・八％とOECD加盟国の中で、最低レベルです。教育予算を増やしてOECD加盟国平均の四・一％まで引き上げれば、幼稚園から大学まで教育無償化（約四兆円）、三〇人学級・教職員定数改善・給付奨学金拡充（約二兆円）が実現可能です。

しかし岸田内閣は、五年かけて五兆円の軍事費を倍増し、少子化を理由に教職員定数の削減を続けています。

和教組では、毎年教育予算を増やして国の責任で少人数学級編成などの教育条件の整備を求める教育全国署名の取り組みを全国の仲間とともにすすめています。

少人数学級編成と教職員の増員、教育の無償化をすすめるために教職全国署名の取り組みをまわりの人に広げましょう。

国提出用

請　願　項　目

1．子どもたちのいのちと健康を守るとともに、学ぶ権利を保障するため、教育条件整備に全力をあげてください。

2．教育予算を OECD 諸国並みに計画的に増やし、教育条件整備をすすめてください。

3．国の責任で、小・中学校、高校での 35人以下学級を早期に実現するとともに、「20人学級」を展望して、少人数学級をさらに前進させてください。また、幼稚園や特別支援学級・学校の学級編制標準の引き下げをすすめてください。

4．義務・高校標準法を改正し正規・専任の教職員を増員してください。

5．教育費の保護者負担を軽減するとともに教育無償化をすすめてください。
（1）高校・大学等の学費無償化や高校生・大学生等への給付奨学金制度の拡充をすすめてください。
（2）私学経常費助成補助の増額と就学支援金拡充で学費の公私間格差をなくしてください。

6．公立・私学ともに豊かな環境のもとで学べるよう、教育条件や施設の改善をすすめてください。
（1）特別支援学校の過大・過密解消のため、国による財政支援を拡充し、学校新設や既存校への「設置基準」適用をすすめてください。
（2）学校の耐震化・老朽化対策、洋式トイレや工アコンの普及、バリアフリー化をすすめてください。

7．東日本大震災などの地震や自然災害、福島原発事故の被害を受けた子どもを守り、学校と地域の要望を反映した復旧・復興をすすめてください。

氏名（フルネームで）	住所（〇〇県△△市□□町１丁目２−３←番地までお書きください）
	和歌山県　市郡
	和歌山県　市郡
	和歌山県　市郡
	和歌山県　市郡
	和歌山県　市郡

※名前(姓)や住所を「〃」「同上」のように省略せずに記入してください
※上記個人情報は、国会へ提出する以外に使用しません
※和歌山県以外の方は、「和歌山県」に二重線を入れた上でお書きください

西牟婁 ママパパのしゃべり場

西牟婁支部「ママパパのしゃべり場」には四ヶ月から三歳前後の子どもたち、産休に入ったばかりの方、三組が参加しました。女性部が企画し、退職教職員の方々、支部長、書記長も子育てと仕事の両立支援アドバイザーとして会を支えてくれました。

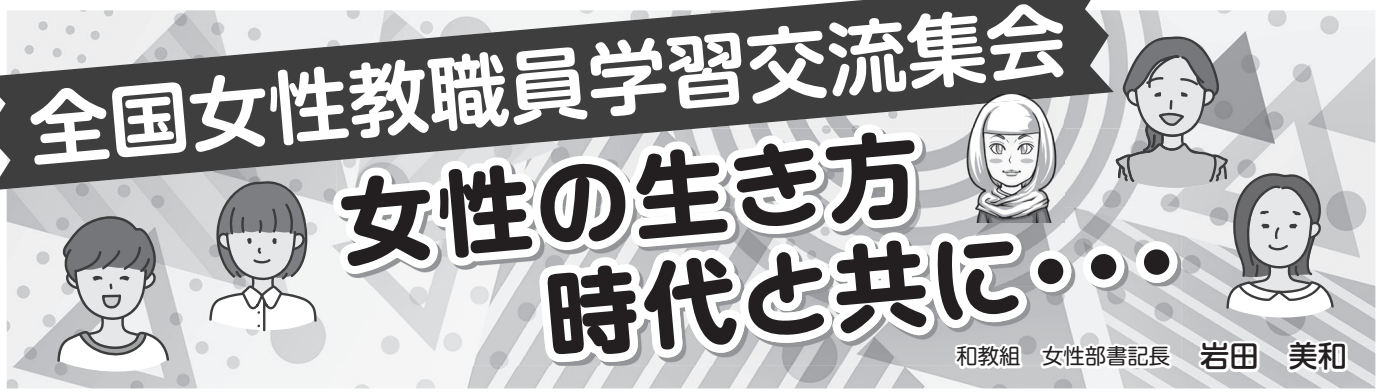
ピアノが鳴り、リトミックが始まると、場所に慣れない子ども達は一旦様子を見て固まっていましたが、そのうち育児のプロたちの手によりあっと言う間に打ち解けていました。

おかげ様で、大人たちだけで輪になって、産育休の困りごとやこんな制度があったらいいのに、という話が広がりました。前日ニュースになったばかりの産休補充「先読み加配」制度は現在育休中の方には必要ではない制度ですが、皆さん自分のことの様に喜んでくれました。

また、「育児短時間勤務や部分休業でどれくらい給料が減額されるのか」では具体的な数字が出るとびっくりしていましたが、平日に買い物して帰ることができたという体験談や、一週間のリズムをどうしているか、という先輩ママの話は大いに参考になったのではないかと思います。また、この一〇月から改正された育休制度では、配偶者と一緒に両立を考えていただければ「日本のジェンダーギャップ」は埋まっていくと思いますが、どうでしょうか!?ママ達はちょっと苦笑いされていましたが、男性育休が当たり前の世の中にしていきたいですね。

全国女性教職員学習交流集会

女性の生き方 時代と共に・・・



和教組　女性部書記長　岩田　美和

一〇月二九日～三〇日の日程で静岡県御殿場市にある「時の栖」での学習交流集会に参加しました。

台風やコロナ禍で四年振りのオンライン併用開催。今まで会議の画面上で会っていた方に「あ、見たことある」と声をかけられ、一気に全国との距離が縮まりました。

全体会は「人の生きづらさを支える」というテーマで静岡県立大学の教授、元少年院教官のお話でした。テーマは抽象的でしたが、中身が具体的で「静岡モデル」として地域の困りごとをチームで解決するシステムを示してくれました。

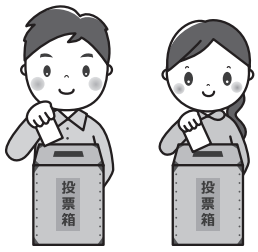
困っている人の気持ちに寄り添う一方で自分がはまり込まない、というメンタルの話もとても参考になりました。和歌山でオンライン視聴した方から「話を聞いていたら、涙が出てきた」とすぐ静岡に感想が送られ、共通の意識をもてたことを嬉しく思いました。

更にオプションにも大満足でした。仰ぎ見る富士山と済んだ空気の下でのイルミネーション。また、見学分科会「ジェンダーの視点で見る女性たち」で大河ドラマの舞台となっている北条氏ゆかりの地を訪れました。北条政子が夫婦別姓であったことに気づかされ、女性の地位は時代の流れとともに変遷を繰り返してきたのが分かりました。帰ったその日に放映された回では「巴御前」が凛として素敵でした。来年は京都です。大人の修学旅行に貸し切りバスで行きましょう！

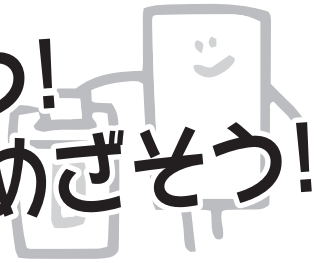
11/27 知事選挙

期日前投票のご案内

- 各市町村が設置している「期日前投票所」（役場が多い）で、基本は午前８時30分から午後８時まで投票できます。
- 郵送されている「投票入場券」を持参すればＯＫです。印鑑は不要です。
- 「投票入場券」がなくても、所定の書類に必要事項を記入すれば投票できます。



投票に行こう！ 要求実現をめざそう！



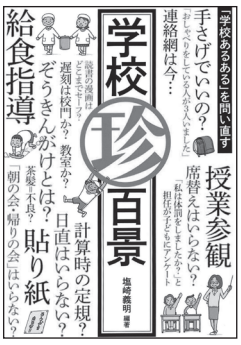
十一月二七日投票で県知事選挙が行われています。和教組では立候補している三氏に六項目（①少人数学級 ②教職員定数 ③県学力テスト ④子どもの貧困 ⑤コロナ対策 ⑥ＩＲカジノ）の公開質問状を送付し、その結果を赤枠速報で職場にお届けします。県知事は予算編成をはじめ、県の政策を決定するうえで大きな力を持っています。少人数学級前進や教職員定数改善、学力テストの廃止など私たち県民・教職員の願いが届く県政を実現するため、忙しい中ですが、投票に行きましょう！

ぜひ あなたにも 読んでいただきたい この一冊

6 「学校珍百景」

（塩崎義明　編著）

有田支部　支部長　**堀江　宏三**



学校の珍百景という一冊を紹介してくれたのは、国民教育研究所の大川先生でした。表紙を目にした時、学校に珍百景ってあるのかなと不思議に思い、早速購入して読んでみました。

学校の珍百景とは、学校でしか通用しない価値観のことです。学校に在籍している時は自然に受け入れていることも、振り返ってみると「？」と感じることが多々あるのではないでしょうか。そうです、この本を読み進めていくと学校には学校でしか通用しないような「あるある」があることに気づかされるのです。それがいわゆる「学校の珍百景」なのです。学校で見られる日常の風景について、「なぜ？」と考えたことがあるでしょうか。

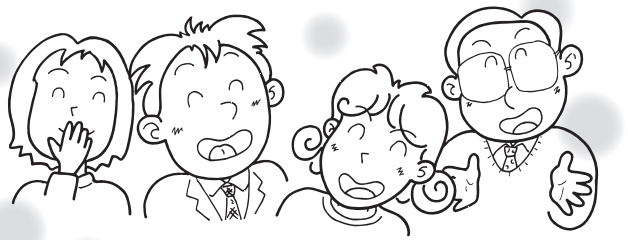
当然、今の学校の忙しさの中ではゆっくりと考えることができないことはわかっていますが、この本は、そのようなことを否定しているのではなく、一度立ち止まって、当たり前のように行っている日常を振り返って、考えてみるのもおもしろいのではないかと問いかけているのです。

「手提げでいいよ」と言うと子どもたちは喜びます。ランドセルがあるのに、どうしてなのでしょう。

そもそもランドセルは、江戸幕府が洋式軍隊制度を導入する際、兵士が荷物を入れるための装備品として持たされた背嚢（はいのう）が由来だそうです。明治に入って、通学用鞄として学習院が導入したとなっています。このような歴史的背景に加えて、みんなと同じ鞄ということでランドセルが広がったのかもしれません。

このようなちょっとした知識も知ることができる本です。

安心と信頼
教職員のための
『教弘保険』



（株）和歌山教弘
提携会社：ジブラルタ生命保険株式会社
■和歌山第一営業所　073-421-8250　■和歌山第二営業所　073-421-8250　■和歌山第三営業所　073-421-8250
■橋本営業所　0736-33-1620　■田辺営業所　0739-22-5751　■新宮営業所　0735-22-0101

「平和・平和・平和」
今まで何度この言葉を言ってきただろう。
命ある限り反戦・平和を訴える

講師：**古久保　健**さん（元管理職組合）

今年の女性部主催
「新春のつどい」は
みんなで平和を考えよう

日時　2023年1月7日(土) 13時30分～
in 龍神温泉
又は県教育会館に集まってください!

詳しくは和教組まで